



## 平成30年2月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成30年1月12日

上場会社名 株式会社プレナス

上場取引所 東

コード番号 9945

URL <https://www.plenus.co.jp/>

代表者（役職名）代表取締役社長（氏名）塩井 辰男

問合せ先責任者（役職名）経営管理室長（氏名）丸山 俊也

(TEL) 03 (6892) 0304

四半期報告書提出予定日 平成30年1月12日 配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成30年2月期第3四半期の連結業績（平成29年3月1日～平成29年11月30日）

#### (1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年2月期第3四半期	109,478	3.3	4,436	△16.9	4,659	△17.5	2,474	△16.2
29年2月期第3四半期	105,939	△2.9	5,340	13.1	5,648	12.1	2,951	0.1

(注) 包括利益 30年2月期第3四半期 2,559百万円 (△12.5%) 29年2月期第3四半期 2,923百万円 (0.0%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年2月期第3四半期	64.63	64.44
29年2月期第3四半期	77.11	76.91

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
30年2月期第3四半期	91,251	66,145	71.9
29年2月期	92,736	66,151	70.8

(参考) 自己資本 30年2月期第3四半期 65,582百万円 29年2月期 65,651百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年2月期	-	30.00	-	30.00	60.00
30年2月期	-	30.00	-	-	-
30年2月期（予想）	-	-	-	30.00	60.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 平成30年2月期の連結業績予想（平成29年3月1日～平成30年2月28日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	146,600	4.0	5,400	△24.9	5,600	△26.5	2,400	△40.6	62.68

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無  
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)  
新規 一社 (社名)、除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有  
(注) 詳細は、添付資料P.9「(3)四半期連結財務諸表に関する注記事項(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示  
① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無  
② ①以外の会計方針の変更 : 無  
③ 会計上の見積りの変更 : 無  
④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数(四半期累計)

30年2月期3Q	44,392,680株	29年2月期	44,392,680株
30年2月期3Q	6,103,682株	29年2月期	6,111,176株
30年2月期3Q	38,287,800株	29年2月期3Q	38,281,532株

※ 四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

- ・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

※ 四半期決算補足説明資料の入手方法について

- ・四半期決算補足説明資料は、平成30年1月12日(金)に当社ホームページに掲載いたします。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	P. 2
(1) 連結経営成績に関する説明	P. 2
(2) 連結財政状態に関する説明	P. 4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	P. 4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	P. 5
(1) 四半期連結貸借対照表	P. 5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	P. 7
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	P. 7
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	P. 8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	P. 9
(継続企業の前提に関する注記)	P. 9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	P. 9
(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)	P. 9
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	P. 9
(追加情報)	P. 9
(セグメント情報等)	P. 10

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 連結経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、企業収益や雇用・所得環境が改善する中、緩やかな回復基調が続きました。

当外食産業におきましては、業種や業態の垣根を越えた顧客獲得競争の激化に加え、労働力不足による人件費の上昇等から引き続き厳しい事業環境が続きました。

このような状況の中、当社グループにおきましては、商品力の強化、効果的な販売促進活動の展開、店舗のQSC(品質、接客、清潔感)向上に努めると共に、収益力の向上、フランチャイズ展開の推進を図り、さらなる事業基盤の強化に注力しました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は、1,094億78百万円(前年同期比3.3%増)、営業利益は44億36百万円(前年同期比16.9%減)、経常利益は46億59百万円(前年同期比17.5%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益は24億74百万円(前年同期比16.2%減)となりました。売上高につきましては、既存店売上高が前年同期実績を下回ったものの、宮島醤油フレーバー(株)など前期末以降に連結の範囲に含めたグループ会社の売上や、新規出店により店舗数が増加したことが要因で前年同期実績を上回りました。営業利益及び経常利益につきましては、為替等による仕入コストの低減や効率的な広告宣伝内容への見直しでコストの効率化に努めましたが、為替等による仕入コストの低減効果は上期でほぼ一巡し、既存店売上高の減少や、I D - P O S 導入コストの発生で前年同期実績を下回りました。親会社株主に帰属する四半期純利益につきましては、前述の影響により前年同期実績を下回りました。

## [国内における店舗展開の状況]

	前連結会計 年度末	新規出店	退店	当第3四半期 連結累計期間末	改装・移転
ほっともっと	2,661店	65店	29店	2,697店	100店
やよい軒	329店	19店	5店	343店	11店
MKレストラン	32店	1店	1店	32店	3店
合計	3,022店	85店	35店	3,072店	114店

(注) 都市型の持ち帰り弁当店「BizLunch(ビズランチ)」は、8月末をもって全店舗退店しました。

## [海外における店舗展開の状況]

	展開エリア	前連結会計 年度末	新規出店	退店	当第3四半期 連結累計期間末
ほっともっと	中国	4店	2店	1店	5店
	韓国	8店	5店	1店	12店
	オーストラリア	1店	—	—	1店
やよい軒	タイ	157店	12店	5店	164店
	シンガポール	7店	1店	—	8店
	オーストラリア	3店	—	—	3店
	台湾	9店	2店	—	11店
	米国	2店	1店	—	3店
	フィリピン	1店	—	—	1店
合計	—	192店	23店	7店	208店

セグメントの業績は次のとおりであります。

なお、当第1四半期連結会計期間において、報告セグメントの区分を変更しております。詳細は、「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3)四半期連結財務諸表に関する注記事項(セグメント情報等)【セグメント情報】の「II 2. 報告セグメントの変更等に関する事項」をご参照ください。

## 【ほっともっと事業】

定番商品である「のり弁当」が平日昼限定で290円となるサービスや、人気メニューを週替わりでお得な価格でご購入いただける「週刊ほっともっと」、スマートフォンを利用した新会員サービス「My Hotto Motto」をスタートするなど、お客様の来店頻度向上に注力すると共に、コミュニケーションアプリLINEのほっともっと公

式アカウントから、キャンペーン、新商品などの情報やクーポンを配信する等、新たな販促活動にも取り組みました。また、天ぶらを特製のたれで煮込んだ新商品「たれ煮天井」や、北米産ビーフステーキ、ハンバーグ、チキンステーキをワンプレートに収めた、ほっともっと最重量級のお弁当「ビフテキコンボ」を発売するなど、より魅力ある商品の提供に努めました。

一方で、収益力の一層の強化を図るため、引き続きコストの効率化を図ると共に、コンパクトでより生産性の高い店舗での出店を進めました。また、店舗の改装・移転を積極的に行いました。さらに、より精緻な顧客のデータを蓄積するための、ID-POSの導入を行いました。

フランチャイズ展開につきましては、「ユニットFC制度」を利用して、引き続き新規オーナーの獲得及び既存オーナーの多店舗化に積極的に取り組みました。

以上の結果、売上高は797億19百万円(前年同期比1.5%減)、営業利益36億94百万円(前年同期比15.6%減)となりました。売上高につきましては、新店による売上増加があったものの、既存店売上高の減少(前年同期比2.6%減)が要因で、前年同期実績を下回りました。営業利益につきましては、効率的な広告宣伝内容への見直しや上期までの為替等による仕入コストの低減効果があったものの、既存店売上高の減少や、ID-POS導入コストの発生により、前年同期実績を下回りました。

#### 【やよい軒事業】

素材や手づくり感にこだわった定食メニューをお手頃な価格で提供することを基本に、たっぷりの野菜を食べられるバランスの良い「若鶏と野菜の黒酢あん定食」や、「かきフライ定食」など、季節感を取り入れた商品を適宜販売しお客様の幅広いニーズへの対応を図りました。また、お客様に快適にご利用いただけるよう、店舗のQSC向上に努めると共に、テレビCMの放映を効果的に実施し、お客様の来店を促進を図りました。

フランチャイズ展開につきましては、「ユニットFC制度」を利用して、引き続き新規オーナーの獲得に積極的に取り組みました。

以上の結果、売上高は220億9百万円(前年同期比0.2%増)、営業利益は11億41百万円(前年同期比18.7%増)となりました。売上高につきましては、既存店売上高の減少(前年同期比2.4%減)、直営店の加盟店への移管があったものの、新規出店により店舗数が増加したことが要因で、前年同期実績を上回りました。営業利益につきましても、為替等による仕入コストの低減により、前年同期実績を上回りました。

#### 【MKレストラン事業】

豊富な具材と個性豊かなスープが選べるしゃぶしゃぶに、季節限定のスープや特選具材を取り揃えるなど、商品力の強化に努めました。また、お手ごろ価格の「鶏しゃぶしゃぶ食べ放題」、期間限定で「トマト鍋スープ」を販売するなど幅広いお客様のニーズへの対応も図りました。加えて、店舗のQSC向上に努めると共に、テレビCMの放映やメール会員向けのキャンペーンを実施し、お客様の来店を促進を図りました。

店舗展開につきましては、当第3四半期連結累計期間末32店舗を運営しております。

以上の結果、売上高は25億26百万円(前年同期比0.1%増)、営業利益は85百万円(前年同期比58.3%減)となりました。売上高につきましては、新規出店により店舗数が増加したことが要因で、前年同期実績を上回りました。営業利益につきましては、人件費やイニシャルコストの増加等により、前年同期実績を下回りました。

#### 【海外事業】

当第1四半期連結会計期間から、連結子会社北京好麦道餐饮管理有限公司(中国)、Plenus Global Pte.Ltd.(シンガポール)、Plenus, Inc.(米国)に加え、PLENUS AusT PTY. LTD.(オーストラリア)を連結対象としております。

当第3四半期連結累計期間におきましては、事業の黒字化を目指して売上の拡大とコストの最適化に努めると共に、出店をすすめて事業の拡大を行いました。

以上の結果、売上高は14億15百万円(前年同期比193.6%増)、営業損失は4億21百万円(前年同期は、営業損失1億59百万円)となりました。

#### 【その他】

宮島醤油フレーバー(株)は調味料・加工食品のOEM(相手先ブランド名製造)を主な事業としております。既存顧客への新商品提案を積極的に行うと共に、新規顧客獲得のための営業活動を実施しました。また、当社グループ店舗で使用する調味料等の開発も行っております。

以上の結果、売上高は38億6百万円となりました。利益面につきましては、のれん代の償却があり、結果としては営業損失18百万円となりました。

なお、同社につきましては、発行済株式総数の55%を、前連結会計年度末をみなし取得日として取得し、子会社化したしました。

(2) 連結財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ14億85百万円減少し、912億51百万円となりました。内訳は、流動資産68億30百万円の減少、固定資産53億44百万円の増加であります。流動資産の減少は、現金及び預金77億80百万円の減少、受取手形及び売掛金2億97百万円の減少、商品及び製品14億90百万円の増加、未収入金2億7百万円の減少などによるものです。また、固定資産の増加は、有形固定資産55億50百万円の増加、投資その他の資産2億98百万円の減少などによるものです。なお、現金及び預金の減少、有形固定資産の増加は、主に新店・改装、食品総合工場(平成30年8月完成予定)への設備投資によるものです。

負債は、前連結会計年度末に比べ14億79百万円減少し、251億5百万円となりました。内訳は、流動負債17億46百万円の減少、固定負債2億67百万円の増加であります。流動負債の減少は、未払法人税等15億50百万円の減少、未払金3億28百万円の減少、未払費用7億20百万円の増加、未払消費税等4億43百万円の減少、賞与引当金2億41百万円の減少などによるものです。固定負債の増加は、資産除去債務3億46百万円の増加などによるものです。

純資産は、前連結会計年度末に比べ6百万円減少し、661億45百万円となりました。内訳は、利益剰余金99百万円の減少、その他有価証券評価差額金23百万円の増加、非支配株主持分21百万円の増加などによるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成30年2月期の業績予想につきましては、平成29年10月11日に公表しました数値から修正しております。詳細は、本日開示しました「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (平成29年2月28日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年11月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	23,607	15,826
受取手形及び売掛金	3,037	2,739
商品及び製品	4,217	5,708
原材料及び貯蔵品	73	243
その他	3,198	2,815
貸倒引当金	△71	△100
流動資産合計	34,062	27,232
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	30,103	32,023
その他(純額)	10,830	14,460
有形固定資産合計	40,933	46,484
無形固定資産		
のれん	1,558	1,392
その他	656	914
無形固定資産合計	2,215	2,307
投資その他の資産		
その他	15,563	15,268
貸倒引当金	△38	△41
投資その他の資産合計	15,524	15,226
固定資産合計	58,673	64,018
資産合計	92,736	91,251
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	6,306	6,395
短期借入金	43	10
未払法人税等	2,028	477
賞与引当金	364	122
役員賞与引当金	59	14
ポイント引当金	117	114
株主優待引当金	131	30
資産除去債務	54	5
その他	8,963	9,151
流動負債合計	18,069	16,323
固定負債		
長期借入金	167	148
退職給付に係る負債	58	62
資産除去債務	4,902	5,248
その他	3,386	3,323
固定負債合計	8,514	8,782
負債合計	26,584	25,105

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (平成29年2月28日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年11月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,461	3,461
資本剰余金	4,827	4,828
利益剰余金	69,134	69,035
自己株式	△11,910	△11,897
株主資本合計	65,513	65,428
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	36	59
為替換算調整勘定	102	93
その他の包括利益累計額合計	138	153
新株予約権	195	237
非支配株主持分	304	325
純資産合計	66,151	66,145
負債純資産合計	92,736	91,251



## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第3四半期連結累計期間

(単位:百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年3月1日 至平成28年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年3月1日 至平成29年11月30日)
売上高	105,939	109,478
売上原価	47,594	50,515
売上総利益	58,345	58,962
販売費及び一般管理費	53,005	54,526
営業利益	5,340	4,436
営業外収益		
受取利息	40	34
受取配当金	3	2
為替差益	26	-
固定資産賃貸料	107	103
受取補償金	83	33
持分法による投資利益	11	-
受取保険金	57	86
その他	63	125
営業外収益合計	393	386
営業外費用		
固定資産賃貸費用	22	16
持分法による投資損失	-	66
為替差損	-	7
貸倒引当金繰入額	13	10
その他	48	64
営業外費用合計	85	164
経常利益	5,648	4,659
特別利益		
固定資産売却益	22	2
災害見舞金受取額	2	-
投資有価証券売却益	-	6
特別利益合計	25	9
特別損失		
固定資産処分損	293	168
減損損失	171	136
災害義援金等	30	-
災害による損失	22	-
その他	85	4
特別損失合計	603	308
税金等調整前四半期純利益	5,070	4,359
法人税等	2,134	1,863
四半期純利益	2,936	2,495
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△15	21
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,951	2,474

四半期連結包括利益計算書  
第3四半期連結累計期間

(単位:百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年3月1日 至平成28年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年3月1日 至平成29年11月30日)
四半期純利益	2,936	2,495
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	23	23
為替換算調整勘定	△36	33
持分法適用会社に対する持分相当額	-	6
その他の包括利益合計	△13	63
四半期包括利益	2,923	2,559
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,944	2,538
非支配株主に係る四半期包括利益	△21	20

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)

当第3四半期連結累計期間において、主要な関係会社の異動はありません。なお、第1四半期連結会計期間において、PLENUS AusT PTY, LTD. (オーストラリア)は、重要性が増したため、連結の範囲に含めております。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

(追加情報)

(繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を第1四半期連結会計期間から適用しております。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

## I 前第3四半期連結累計期間(自平成28年3月1日至平成28年11月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					その他	調整額 (注) 2	四半期 連結損益 計算書 計上額 (注) 3
	ほっと もっと 事業	やよい軒 事業	MK レストラ ン事業	海外事業	計			
売上高								
(1) 外部顧客に対する売上高 (その他営業収入を含む)	80,963	21,969	2,525	482	105,939	—	—	105,939
(2) セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—	—	—
計	80,963	21,969	2,525	482	105,939	—	—	105,939
セグメント利益又は損失(△)	4,376	961	204	△159	5,383	—	△42	5,340

(注) 1 当社には、報告セグメントに含まれない事業セグメントはありません。

2 セグメント利益又は損失の調整額は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。

3 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## II 当第3四半期連結累計期間(自平成29年3月1日至平成29年11月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					その他 (注) 1	調整額 (注) 2	四半期 連結損益 計算書 計上額 (注) 3
	ほっと もっと 事業	やよい軒 事業	MK レストラ ン事業	海外事業	計			
売上高								
(1) 外部顧客に対する売上高 (その他営業収入を含む)	79,719	22,009	2,526	1,415	105,671	3,806	—	109,478
(2) セグメント間の内部売上高 又は振替高	343	43	—	—	387	928	△1,316	—
計	80,063	22,053	2,526	1,415	106,058	4,735	△1,316	109,478
セグメント利益又は損失(△)	3,694	1,141	85	△421	4,500	△18	△45	4,436

(注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、連結子会社1社分であります。

2 セグメント利益又は損失の調整額は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。

3 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントの変更等に関する事項

第1四半期連結会計期間より、従来の「ほっともっと事業」、「やよい軒事業」に含めていた「海外事業」について、重要性が高まったことに伴い、報告セグメントとして記載する方法に変更しております。なお、前第3四半期累計期間のセグメント情報は、変更後の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示しております。